

湖山池を「霞の里」にするために

かすみ

「春くれば花の都を見てもなを霞の里に心をぞやる」、平安時代、和泉式部いずみしきぶがふるさとの湖山をしのんで歌ったと言われるように、古来から湖山池を取り巻く風土は、池を中心とした自然に恵まれ、人々を引き付けてきました。

しかし、現在の状況はどうでしょう。水は汚れ、魚も少なくなり、周辺の緑も減少しています。貴重な自然環境は悪化する一方です。

鳥取市は、こつした水、生き物や緑、景観、歴史・文化・伝統、地域産業といった風土全体を湖山池の貴重な資源としてとらえ、湖山池一帯を人々が集い、楽しみ、交流できる空間としていく、「霞の里づくり」のビジョンと、この周辺の整備のあり方を示した基本計画を策定しました。

湖山池周辺地域

づくりビジョン

湖山池の風土をまもり・つくり・つかい（保全・創生・活用）、次の世代に残していくことを最も重要な課題として位置付けました。

そして、市民のみなさんや、

行政、大学が一体となって、この計画を推進し、観光客も

含めた人々が集い楽しむことのできる地域（風土）にすることを基本理念としました。

さらに、基本方針として、次のことを目指すことにしました。